

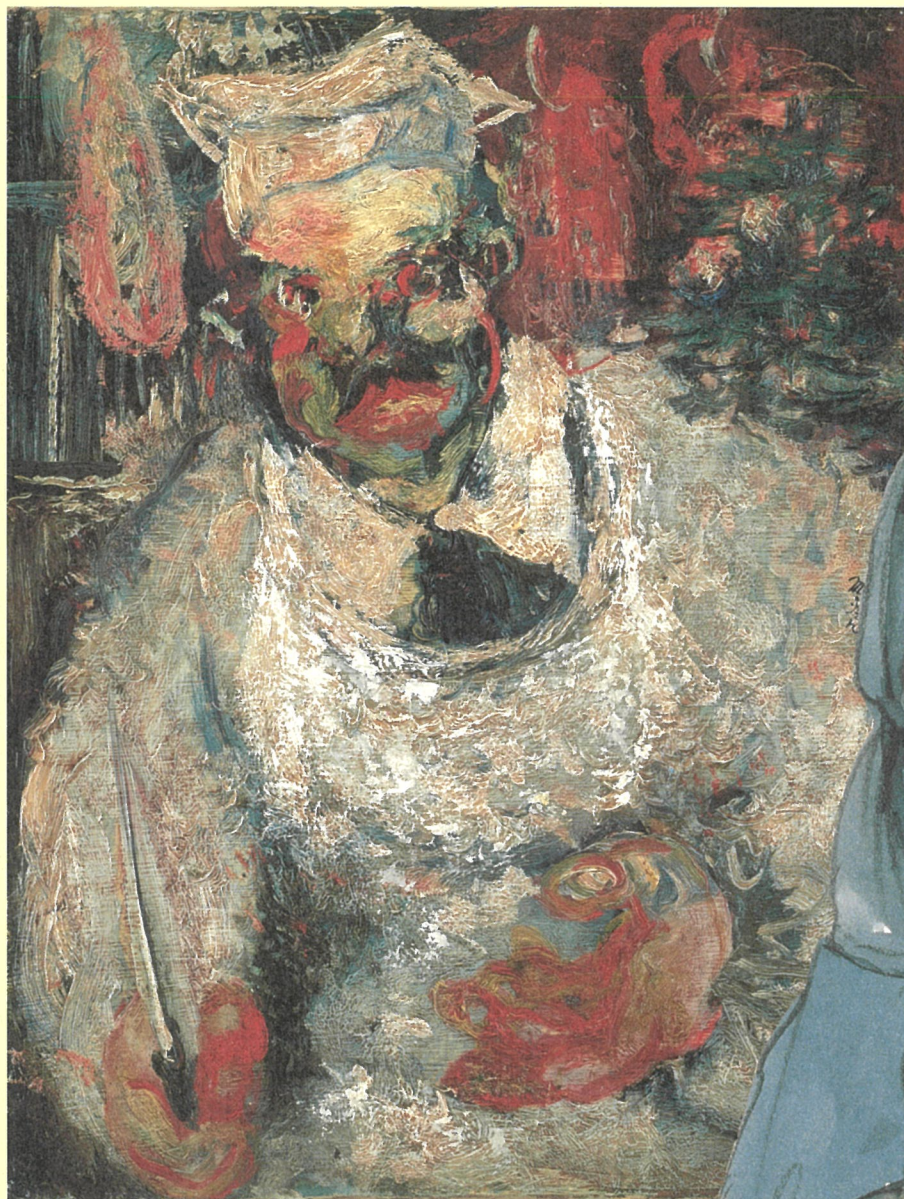
向井潤吉の描いた 人間像をめぐる

生誕100年記念

向井潤吉の旅

2001
12月1日 — **2002
3月24日**

開館時間：午前10時より午後6時（入館は5時30分まで）
休館日：毎週月曜日（休日と重なった場合は翌日）
入館料：一般200（160）円、大高生150（120）円、中小生100（80）円
65歳以上および障害者の方100（80）円 *（ ）内は20名以上の団体料金



《司厨夫》1928年



《不詳（長野県更埴市森区）》
制作年代不詳

《田舎俣の女（山形県）》
1965年頃（部分）



世田谷美術館分館

向井潤吉アトリエ館

〒154-0016 東京都世田谷区弦巻 2-5-1

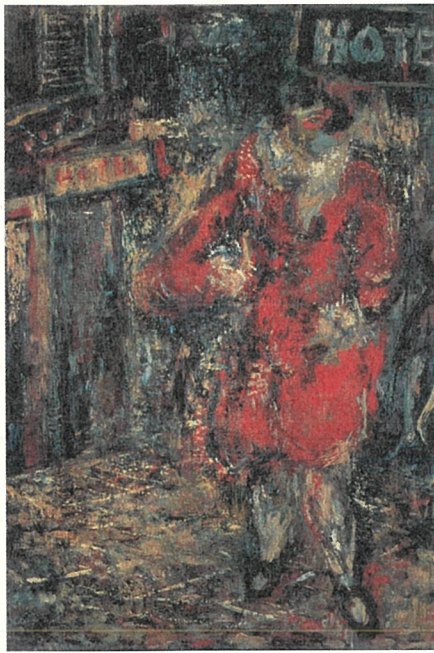
Tel.03-5450-9581 Fax.03-5450-9583

<http://www.setagayaartmuseum.or.jp/mukai/mindex.html>

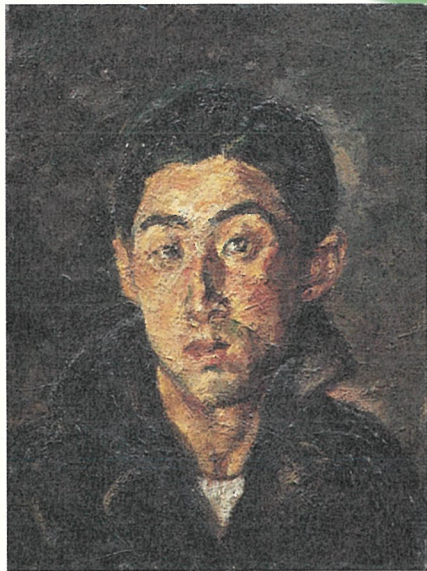
向井潤吉の描いた人間像をめぐる

生誕100年記念

向井潤吉の旅



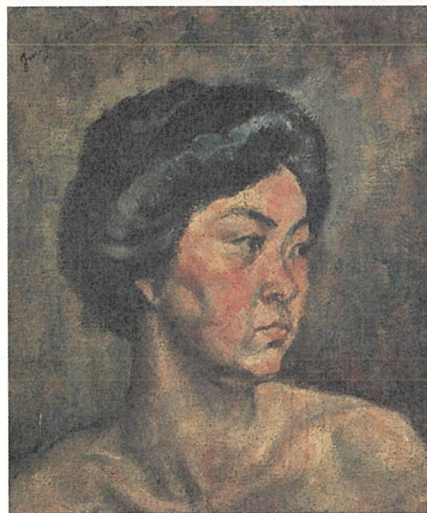
1



4



2



5



3



6



7

向井潤吉先生の草屋根の民家を題材とした諸作品は、たいへん広く知られ、それらはまさに先生の画業を代表するものといって、過言ではないでしょう。

日本の風土に根ざした生活感あふれるそれらの風景画は、四季の彩りとともに、日本の原風景を感じさせるものであり、私たちの胸中に、そこはかない懐郷の念を抱かせます。

今回の展覧会では、こうした民家を題材とする作品とともに、向井潤吉先生が好み、また繰り返し制作されてきた、人物をモチーフとした諸作品をご紹介します。

向井先生は若き画学生の頃より、人物を好んで題材としてきました。戦後、一貫して民家を描いてきた先生の、あまり知られていない一面が、これらの作品にはあらわれ、また昭和洋画壇における人物表現のありさまの一端を、垣間見ることができます。

今回ご紹介する作品は、最初期の制作である《自画像》、《舞妓の顔》などをはじめ、昭和2年(1927)から5年(1930)にかけて滞欧した時期に、勉学を目的にルーヴル美術館で模写をしたルノアール、ミレーの諸作品、そして、パリで制作を重ねた裸婦のクロッキーや、パリの街角で目にした人々を題材とした作品など、先生の画業の中でも、とりわけ目にすることが少ないものです。

また、民家を題材とする作品に取り組んでからも、地に働く人々の姿を描きとめており、このことから、向井潤吉先生が人間にたいして深い関心を抱き続けられたことが感じられます。

先生の画業を代表する民家を題材とする諸作品とともに、数々の人物画を通じて、その豊かな画業をご覧いただきたいと思います。

●最寄り交通機関のご案内

東急田園都市線	駒沢大学駅	西口下車	徒歩10分
東急世田谷線	松陰神社前駅	下車	徒歩17分
東急バス(渋05)	渋谷～弦巻営業所	駒沢中学校下車	徒歩 3分
東急バス(等11)	祖師谷折返所～等々力	駒沢三丁目下車	徒歩 3分
東急バス(渋11)	渋谷～田園調布	駒沢大学駅前下車	徒歩10分
東急バス(渋12)	渋谷～二子玉川	駒沢大学駅前下車	徒歩10分



◀は案内看板の位置です。

世田谷美術館分館

向井潤吉アトリエ館

〒154-0016 東京都世田谷区弦巻 2-5-1

Tel.03-5450-9581 Fax.03-5450-9583

<http://www.setagayaartmuseum.or.jp/mukai/mindex.html>

- 1 夜の街 1928年頃 80.0×54.1cm
- 2 不詳(笠と農夫) 1955年頃 36.0×25.0cm
- 3 不詳(農作業) 1955年頃 25.0×36.0cm
- 4 自画像 1919年 45.5×33.5cm
- 5 習作(婦人像) 1919年 45.5×38.0cm
- 6 廃屋と残雪 1979年 37.8×45.6cm
- 7 マタギの家 根子部落にて(秋田県北秋田郡阿仁町根子) 制作年代不詳 49.5×60.5cm